

第2章 まちづくりの課題整理

2-1 土地利用

(1) 市街地形成・都市構造

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・ 少子高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりの推進 ◆本市の現況 ・ 総人口の減少、世帯数の微減 ・ 用途地域内の人口の減少、白地地域・都市計画区域外での人口増加 ・ 将来における人口減少の予測 ・ 都市計画区域の15%に満たない用途地域 ・ 都市計画区域の7割を占める自然的土地利用（都市的土地利用は3割） ◆上位関連計画 ・ 非線引き都市計画区域の白地地域及び周辺の都市計画区域が指定されていない地区では、周辺環境との調和の観点から都市計画区域の拡大を検討するとともに、特定用途制限地域や地区計画の指定などを推進（県都市マス） ・ 旧町村の中心地において、都市機能を集約した拠点の形成を図り、高齢者にも優しく、環境負荷の低減にも配慮したコンパクトな市街地の形成（区域マス） ・ 居住・生活環境と自然環境が共生する地域づくり（区域マス） ・ 「自然や農地、山林を保全していく区域」を明確化し、無秩序な都市的土地利用の拡大を抑制（区域マス） ・ 現在の市街地を基本としてコンパクトな市街地の維持・形成を図るとともに、周辺の田園ゾーンの保全（区域マス） ・ 適切な土地利用の誘導を図り、利便性の高い、良好な市街地の形成（区域マス） ◆市民アンケート ・ コンパクトなまちづくりを実現するために必要な取組として、「生活の拠点となる地区において、身近な商業施設、医療施設や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる」との意見が多くあります。 ・ コンパクトなまちづくりは、集落に住む方の移動の負担が増えるとの意見があります。（自由意見） ・ 木造地区の中心部はある程度コンパクトなまちになっているとの意見があります。（自由意見）



課題

◆コンパクトな市街地づくり

- ・既存の用途地域内に居住と都市機能の集積を誘導し、コンパクトなまちづくりの実現を目指す必要があります。
- ・用途地域周辺において、現況土地利用との整合を図った用途地域の適正化を図る必要があります。
- ・無秩序な都市的土地利用の拡大を抑制するよう、適正な規制・誘導を図る必要があります。

◆地域拠点の形成とネットワーク化

- ・旧町村における地域拠点の維持と誘導を図るとともに、中心市街地・地域拠点間を繋ぐネットワーク・連携の強化を図る必要があります。

(2) 住宅地

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・ライフサイクル・スタイルの多様化 ・QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活環境の質）の追求 ◆本市の現況 ・総人口の減少、世帯数の微減 ・少子高齢化の進行、高齢化率の上昇 ・将来における人口減少の予測 ◆上位関連計画 ・バリアフリーや子育て支援等に対応した安全・安心な住環境づくり（区域マス） ・魅力ある住環境・公園等の整備（市総合計画） ・自然と共生する生活環境の整備（市総合計画） ・本市の魅力を発信し、移住・定住を促進（市総合戦略） ・すべての人にとって暮らしやすいまちづくり（市総合戦略） ・地域コミュニティを活性化し支え合う地域社会（市総合戦略） ・快適な住環境の整備（新市建設） 【集落地】 ・集落地の環境整備（区域マス） ◆市民アンケート ・柏地区を除く全ての地区において、住宅を新築するための宅地の整備や、住宅地のまち並みの整備についての満足度が、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。 ・空き地、空き家等への対策は、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低） ・道路脇に倒壊の危険を感じる空き家が多いとの意見があります。（自由意見）



課題
◆住環境の向上 ・だれもが安全かつ快適に過ごせる住環境づくりを進める必要があります。 ・これまで培われてきた地域における生活様式、コミュニティを維持するとともに、多様化するライフスタイルへ対応する住環境づくりが必要です。 ・集落居住地においては、自然地や田園地域と共生する住環境の維持、保全に努める必要があります。 ◆居住誘導 ・用途地域内に居住を促進するための住宅地供給を進める必要があります。 ◆空き家・空き地の有効活用 ・空き家・空き地を有効活用していくことで、居住の促進を図る必要があります。

(3) 商業地

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・ 中心市街地の衰退化、空き店舗の増加 ◆本市の現況 ・ 第3次産業就業者の比率の増加 ・ 事業所数の減少 ・ 年間商品販売額、1店舗当たり年間商品販売額の増加 ・ 幹線沿道などへの大型店舗の出店 ◆上位関連計画 ・ JR 五能線木造駅前周辺の中心市街地の活性化を積極的に行い、賑わいがあり、便利に暮らすことのできる都市づくり（区域マス） ・ 柏地区の国道101号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、中心商業地等とのバランスに配慮し、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導（区域マス） ・ 地域特性を生かした商工業の推進（市総合計画） ・ 就労機会の確保による定住促進（新市建設） ・ 生活に根付いた商業の活性化（新市建設） ◆市民アンケート ・ 柏地区を除く全ての地区において、買物をする店舗の整備については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低） ・ 柏地区では、地区の役割として「周辺地域のための商業を担う地区」との意見が多くなっています。 ・ 木造地区及び柏地区では、魅力を高めるために必要な取組として、「中心市街地や拠点となる地域を活性化し、にぎわいのあるまちづくりを進める」との意見が多くなっています。 ・ 商業施設、商店街が少ないとの意見があります。（自由意見） ・ 観光地やイベント参加者が利用できる商業施設を希望する等の意見があります。（自由意見）



課題
◆にぎわいの再生 ・ 中心部において、中心市街地の魅力の向上を図るよう、活性化対策を検討する必要があります。 ◆沿道商業地・大型店舗の計画的な規制・誘導 ・ 幹線道路の沿道利用について、土地利用を計画的に進めるよう、適正な規制・誘導を図る必要があります。 ・ 大型店の出店について、適正に出店を誘導していく必要があります。 ・ 住民のニーズに沿った商業地（拠点）の維持が必要とされています。

(4) 工業地

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・環境への負荷に配慮した工業地 ・ICTの進化に伴う産業のグローバル化 ◆本市の現況 ・第2次産業就業者、事業所数の減少 ・製造品出荷額は長期的に増加 ◆上位関連計画 ・柏地区の国道101号及び(一)妙堂崎五所川原線沿道については、中心商業地等とのバランスに配慮し、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導(区域マス) ・地域産業の振興による多様な「しごと」の創出(県総合戦略) ・「経済を回す」ための基盤づくり(幹線道路ネットワークや港湾物流拠点などの整備)(県総合戦略) ・働く場の確保(市総合計画) ◆市民アンケート ・働く場所(工場・事業所)については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。(重要度高・満足度低) ・森田地区及び稲垣地区では、地区の役割として「工業・産業など、周辺地域からの雇用の場を担う地区」との意見が多くなっています。 ・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「事務所・店舗・工場などを増大させ、働ける場所を増やす」との意見が多くあります。



課題
◆雇用の促進、産業の活性化 ・雇用の確保・拡大に向けた取り組みとして、新たな産業を誘致する受け皿となる産業業務系の用地を創出する必要があります。 ◆地域資源の活用 ・津軽自動車道のICが整備されている立地の優位性を活かした企業誘致を進める必要があります。 ・広大な自然地、農地、海岸湖岸等の地域特性を生かした産業の拡大・創造を図るとともに、新たな起業を支援する基盤づくりが必要です。

(5) 農地・山林・自然地

現況・計画の位置づけ等

◆今日の社会情勢

- ・環境保全に対する意識が高まっています。

◆本市の現況

- ・第1次産業就業者、農家総数の減少
- ・経営耕地面積の長期的な減少傾向

◆上位関連計画

- ・市街化を抑制すべき区域を明確にするとともに、適切な土地利用規制を図り、優良な農地や自然環境の保全（県都市マス）
- ・本県を代表する穀倉地帯である平野部の農地の保全（県都市マス）
- ・圏域経済の基盤となる肥沃な農地の保全を図るため、社会情勢の変化などに伴う土地需要の変化が予想された場合、都市計画区域の拡大を検討するとともに、農業振興に係る諸制度の活用を推進（県都市マス）
- ・広大な田園地帯、岩木川をはじめとする豊かな自然環境・自然眺望の維持に努め、自然環境が身近に感じられる自然と共生する都市づくり（区域マス）
- ・「6次産業化」を展開するため、基幹産業の農業の高度化や生産基盤の強化（区域マス）
- ・市街地周辺の農地は、良好な生産環境や田園景観等の保全（区域マス）
- ・アグリ分野の持続的成長（県総合戦略）
- ・生業として魅力ある農林水産業の推進（市総合計画）
- ・農業の持続可能性、付加価値を高める（市総合戦略）
- ・農林水産業の振興（新市建設）
- ・農業振興による地域環境の保全と整備（市環境）

◆市民アンケート

- ・山林・農地・河川などの自然環境が保全されていることについての満足度が、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。
- ・つがる市のイメージとして、「豊かな自然環境や田園環境が保全されるまち」や「農林・畜産・漁業が盛んなまち」との意見が多くあります。
- ・稲垣地区及び車力地区では、地区の役割として「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」「漁業を中心とした水産物の生産を担う地区」との意見が多くなっています。
- ・車力地区では、将来の地区のあり方として、「農林・畜産・漁業が盛んな地区」との意見が多くなっています。
- ・稲垣地区及び車力地区では、将来の地区のあり方として「豊かな自然環境や田園環境が保全される地区」との意見が多くなっています。



課題
◆自然環境の保全 ・森林、水辺などの豊かな自然環境を適切に維持・保全していく必要があります。 ◆農地・田園環境の保全 ・つがる市を象徴する、津軽平野の広大な農地・田園環境を保全していく必要があります。 ◆第1次産業の活性化 ・農地、農産物などの地域産品を活かした6次産業化の確立や観光との連携の構築を図り、第1次産業の活性化に取り組んでいく必要があります。

2-2 都市施設

(1) 道路

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・既存ストックの維持管理の適正化、長寿命化の推進 ◆本市の現況 ・国道、主要地方道、一般県道等による幹線道路ネットワークの形成 ・津軽自動車道つがる柏 IC まで整備完了、柏～浮田間の延伸計画 ・都市計画道路は 8 路線が計画決定され、うち、2 路線が整備済み ◆上位関連計画 ・骨格的な物流軸として、津軽自動車道、東西方向の国道 101 号、南北方向の国道 339 号を軸とした広域的な道路網の強化（県都市マス） ・地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備（県都市マス） ・木造地域の中心市街地を中心に、近隣市町や旧町村の中心地の拠点を機能的に結ぶ道路ネットワーク、誰にでも利用しやすい公共交通ネットワークの充実・強化（区域マス） ・6 次産業や広域観光ネットワークを支えるため、津軽自動車道等の骨格的な交通網の整備（区域マス） ・安全で快適な道路ネットワークの整備（市総合計画） ・道路ネットワークの整備促進（新市建設） ・安全な歩行空間の整備率の向上（交通安全対策） ・災害・雪害等に備えたインフラの整備・補修および歩道整備等による歩行空間の確保により、地域の生活空間の安全の確保（インフラ整備） ・各種点検・計画（定期点検、橋梁長寿命化計画等）における対策必要箇所の対策実施率を向上（道路施設維持管理・更新） ◆市民アンケート ・幹線道路の整備についての満足度は、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。 ・歩道の整備については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低） ・柏地区では、将来の地区のあり方として「道路や歩道が充実した地区」との意見が多くなっています。 ・歩道が整備されていない通学路が多いとの意見があります。（自由意見）



課題

◆安全安心な道路づくり

- ・安全で快適な生活のため、歩行空間の確保や雪に強い道路づくりを進めていく必要があります。
- ・融雪施設など、住民ニーズに対応した施設を誘致していく必要があります。

◆都市計画道路の整備促進と見直し検討

- ・未着手となっている都市計画道路は、計画的な整備を進めていく一方で、整備の必要性などを再検討し、見直しを行う必要があります。

◆新たなネットワークの構築

- ・津軽自動車道の延伸を早期に実現するよう、関係機関との調整を進める必要があります。

◆インフラの維持

- ・既存ストックの維持・長寿命化が必要です。

(2) 公共交通

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・コンパクト・プラス・ネットワークを実現する公共交通ネットワークの形成 ◆本市の現況 ・JR 五能線木造駅、陸奥森田駅の乗車人員の長期的な減少傾向 ・民間による 6 路線のバスの運行 ◆上位関連計画 ・生活を支える鉄道や路線バスなどの公共交通の充実と維持・確保を図り、過度に自動車に依存しないまちの形成（県都市マス） ・生活の足となる JR 五能線の維持（県都市マス） ・地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備（県都市マス） ・木造地域の中心市街地を中心に、近隣市町や旧町村の中心地の拠点を機能的に結ぶ道路ネットワーク、誰にでも利用しやすい公共交通ネットワークの充実・強化（区域マス） ・公共交通システムの構築（市総合計画） ・公共交通機関の機能充実（新市建設） ・バス事業の再編成（新市建設） ◆市民アンケート ・路線バスや鉄道については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低） ・木造地区、稲垣地区及び車力地区では、「交通の利便性が良い」との意見が少なくなっています。 ・森田地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「公共交通を充実させ、自動車に頼らない交通手段を便利にする」との意見が多くなっています。 ・電車・バスの増便や、それらに代わる移動手段により、高齢者が自動車を利用しなくても移動できるような環境の整備を希望する意見があります。（自由回答）



課題
◆公共交通機関の維持と利便性の向上 ・生活の足となるとともに、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を構築するよう、公共交通機関の維持と利便性の向上を図っていく必要があります。 ・高齢者など、誰もが利用しやすい移動手段となるよう、設備や運行システムなどの更新を交通事業者とともに検討する必要があります。

(3) 公園・緑地

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・防災面に配慮した機能や設備、需要が拡大しています。 ◆本市の現況 ・都市計画公園 5 箇所のうち 4 箇所が整備済み ◆上位関連計画 ・魅力ある住環境・公園等の整備（市総合計画） ・公園・緑地の整備（市環境） ◆市民アンケート ・公園の整備については、市民ニーズを再確認するとともに、満足度を高める改善が必要又は、施策のあり方を見直す必要があります。（重要度低・満足度低） ・柏地区では、将来の地区のあり方として、「公園や緑地が充実した地区」との意見が多くなっています。 ・柏地区では、公園や広場が必要との意見が多くなっています。 ・公園が少ない、公園に遊具の設置・充実を希望するなどの意見があります。（自由意見）



課題
◆公園・緑地等の適正配置と管理 ・都市計画公園の整備を引き続き進めていく必要があります。 ・地域のニーズに見合った身近な公園を計画的に確保する必要があります。 ・自然災害に備え、公園の役割や機能を見直していく必要があります。

(4) 河川・下水道

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・大規模な風水害が全国的に頻発しています。避難体制の構築など、災害時の対応に対する意識が高まっています。 ・公共施設の総合的な維持管理に関する計画が策定されています。 ◆本市の現況 ・公共下水道事業の普及率は 30.5% ◆上位関連計画 ・岩木川の水辺環境の保全と親水性の向上（県都市マス） ◆市民アンケート ・下水道の整備については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（満足度高・重要度高） ・車力地区では、暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として「水害、土砂災害などの防災に対する安心感を高める」との意見が多くなっています。



課題
◆河川等の維持 ・河川の水辺環境や周辺の自然環境を維持していく必要があります。 ・水害対策の強化を図っていく必要があります。 ◆下水道の整備推進と維持管理 ・衛生的な市街地を形成するよう、公共下水道事業による普及率を高めていく必要があります。 ・既存の下水道施設を適正に維持管理し、長寿命化を図っていく必要があります。

(5) 公共公益施設・生活利便施設

現況・計画の位置づけ等

◆今日の社会情勢

- ・配置や維持管理など、公共公益施設の総合的なあり方が検討されています。

◆本市の現況

- ・小学校7校、中学校5校、高校1校があります。
- ・通学の流出入人口は減少傾向にあります。

◆上位関連計画

- ・広域圏において、五所川原市を補完する都市機能の維持（県都市マス）
- ・柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の中心地を地域拠点と位置づけ、行政窓口等の支所機能、医療福祉・教育文化など、地域の生活に必要な機能の集積（区域マス）
- ・健康づくりの推進、生きがいづくり・介護予防の推進、安心な医療体制の充実（市総合計画）
- ・多様な主体による地域福祉の推進、安心して暮らせる高齢者福祉の充実、きめ細かな障害者・児施策の充実（市総合計画）
- ・学校教育の充実、生涯学習活動の推進、地域文化の振興、スポーツ・文化活動による交流の推進（新市建設）
- ・地域福祉ネットワークの構築、高齢者・障害者（児）福祉の充実、子育て支援体制の充実、健康づくりの推進、地域医療体制の充実と高度・救急医療の強化（新市建設）
- ・公立学校校舎の整備、「図書館等総合情報センター（仮称）」の整備、「つがる匠の館（仮称）」の整備（廃校利用）、運動公園の整備（新市建設）

◆市民アンケート

- ・公共施設のバリアフリー化については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（満足度高・重要度高）
- ・体育館などスポーツ施設及び図書館など文化施設については、現在の満足度の水準を維持又は、施策の重要性認識を含め改善する必要があります。（重要度低・満足度高）
- ・高齢者、障害者等の施設及び保育園等の子育て支援施設については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（重要度高・満足度高）
- ・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「高齢者や障害者、子育て世代など誰でも不自由なく暮らせるための施設を充実させる」との意見が多くあります。
- ・お住まいの地区の周辺に必要な施設として、「消・融雪施設」（特に森田地区）、「食料品など日常的な買物をする店舗」（特に車力地区、稲垣地区）、「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」（特に森田地区、柏地区、稲垣地区）が多くなっています。



課題

◆適正配置

- ・中心市街地や地域の拠点などへ施設等の適正配置を図る必要があります。
- ・廃校などの既存ストックを有効に活用していく必要があります。

◆住民ニーズへの対応

- ・高齢者や障害者等が不自由なく暮らせるよう、医療・福祉施設を適正配置し、健康づくりを推進していく必要があります。

2-3 景観形成

(1) 自然景観

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・環境問題への意識が高まり、地球規模での取り組みが進められています。 ◆本市の現況 ・都市計画区域における自然的土地利用が7割を占めています。 ◆上位関連計画 ・津軽平野と岩木山が織り成す眺望景観を保全する沿道土地利用の規制・誘導（県都市マス） ・圏域を象徴する自然美豊かな景観として、十三湖、変化に富んだ海岸線などの保全（県都市マス） ・市街地周辺の農地は、良好な生産環境や田園景観等の保全（区域マス） ・景観の保全と形成（市環境） ◆市民アンケート ・つがる市の良いところとして、「自然や公園等の緑が豊かにある」との意見が多くなっています。 ・稲垣地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「豊かな自然環境と田園景観を守っていく」との意見が多くなっています。 ・豊かな自然環境を守っていききたい等の意見があります。（自由回答）



課題
◆自然環境の維持保全 ・つがる市を象徴する平野部の田園地帯、農地内に共生する集落で構成される田園景観を保全していく必要があります。 ・岩木川、十三湖、海岸、湿地帯などの水辺・緑の景観を保全していく必要があります。

(2) まちなみ景観

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活環境の質）の追究 ◆本市の現況 ・自然が豊かであり、農村風景が残っています。 ◆上位関連計画 ・市街地、集落地においては、生活に潤いを与える水辺・緑の空間の創出や景観を創造（区域マス） ・柏地区の国道101号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導を図るとともに、良好な沿道景観の形成（区域マス） ◆市民アンケート ・稲垣地区では、つがる市のよいところとして、「良好なまちなみ」との意見が多くなっています。 ・木造地区では、将来の地区のあり方として、「閑静な住環境のある地区」との意見が多くなっています。 ・ベンチのある散歩コースの設置によるきれいで住みよいまちなみを希望する意見があります。（自由意見）



課題
◆幹線道路沿道のまちなみ景観の誘導 ・幹線道路周辺の環境と調和した魅力ある商業地を形成するために、幹線道路沿道のまちなみの誘導が必要です。 ◆景観に配慮した公共空間の整備 ・生活環境の質を高めるため、景観に配慮した公共空間の整備が必要です。

2-4 その他

(1) 防災関連

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・地震、風水害など自然災害に対する意識の高まり ◆本市の現況 ・指定避難所兼緊急避難場所が 88 箇所、緊急避難場所が 23 箇所、福祉避難所が 11 箇所あります。 ◆上位関連計画 ・防災対策の強化（市総合計画） ・空き家の利活用の促進と適正管理などにより、持続可能な環境づくりの推進（県基本計画） ・防災インフラの整備等のハード面と、県民の自助・共助の取組の促進などのソフト面の対策の総合的推進（県総合戦略） ・地域の生活空間の安全の確保（社会資本総合整備計画） ◆市民アンケート ・防災施設や災害時の避難路、避難施設の整備について、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（重要度高・満足度高） ・稲垣地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「避難場所、避難路の整備や建築物の耐震化などの防災まちづくりを進める」との意見が多くなっています。 ・将来の地区のあり方として、「災害に強い地区」との意見が多くなっています。 ・森田地区及び稲垣地区では、地区周辺に必要な施設として、「防災公園や消防署などの防災施設」との意見が多くなっています。 ・車力地区では、暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「水害、土砂災害などの防災に対する安心感を高める」との意見が多くなっています。



課題
◆都市防災の推進 ・災害対策機能を備えた防災活動の拠点となる防災拠点施設や、安全な避難場所の確保、建築物の耐震化などの都市防災の強化による安全・安心なまちづくりが必要です。 ◆空き家の解消、適正管理の促進 ・増加傾向にある空き家の適切な管理及び空き家の解消を促進する必要があります。

(2) 歴史文化・観光

現況・計画の位置づけ等
◆今日の社会情勢 ・文化財の保護と一体となった歴史的風致の維持及び向上 ◆本市の現況 ・指定文化財は、木造地区に 10 件、森田地区に 5 件、柏地区に 1 件、稲垣地区に 6 件、車力地区に 1 件が分布 ・広域的な観光・交流施設として、つがる地球村公園が整備 ◆上位関連計画 ・歴史文化遺産や豊かな自然・景観資源を有機的に結びつけ、観光・交流ネットワークの形成（区域マス） ・世界から選ばれる「あおもりツーリズム」の推進（県総合戦略） ・魅力があふれる観光の推進（市総合計画） ・観光資源を発掘し、PR（市総合戦略） ・地域特性を活かした観光開発（新市建設） ・歴史的遺産・文化財の保全・整備（新市建設） ・自然風景や歴史文化遺産、地域産業を活かした観光開発（市環境） ◆市民アンケート ・観光施設の整備について、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低） ・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「魅力ある観光やイベントなどを充実させて、たくさんの人を集め、賑わいをつくる」との意見があります。 ・宿泊先も考慮したイベント等の開催を希望する意見があります。（自由意見） ・観光客を呼び込み、また来たくなるようなまちを目指してほしいとの意見があります。（自由意見）



課題
◆歴史的遺産・文化財の保全 ・先人から受け継いできた歴史的遺産・文化財を保全し、活用していく必要があります。 ◆観光・交流ネットワークの形成 ・各地区に分布する文化財や公園などの情報を効果的に発信し、広域連携による観光・交流のネットワークを形成する必要があります。